

外国につながる児童生徒による 多文化共生日本語スピーチコンテスト

〔自治体等側事業責任者〕

大洗町国際交流協会・事務局長 大須賀 瑞樹
日立国際交流協議会・事務局長 官田 貴史
ひたちなか市国際交流協会・会長 大平 剛

〔大学側事業責任者〕

人文社会科学部・准教授 横溝 環

(選択テーマ) 地域の教育力向上 学術文化の推進

連携先

大洗町国際交流協会
日立国際交流協議会
ひたちなか市国際交流協会

プロジェクト参加者

【企画・運営】

大洗町役場（大洗町国際交流協会）
大須賀瑞樹（まちづくり推進課・課長）
田山篤（まちづくり推進課・係長）
白土絵利華（まちづくり推進課）
日立市役所（日立国際交流協議会）
根本寛朗（市民活動課）
ひたちなか市国際交流協会
仙波美哉子（日本語支援プロジェクト担当理事）
中島理佳（事務局）
ひたちなか市役所
栗田佳奈（市民活動課）
植田美優（市民活動課）
小美玉市多文化共生グループおみたまじん
羽鳥愛（代表）
茨城大学 横溝環（人文社会科学部・准教授）

【日本語指導・支援】

大洗町
官田奈津恵（大洗小学校教諭）
山崎仁美（大洗小学校教諭）
木村紗也香（大洗小学校教諭）
河原井香織（大洗小学校教諭）

中野星哉（大洗小学校教諭）

武笠展大（南小学校教諭）
古森明子（第一中学校教諭）
宇佐美友理（南中学校教諭）
田上彰子（日本語ボランティア）

日立市

福地季子（日本語ボランティア・フレンド
リーあんず代表）
川村章子（日本語ボランティア・フレンド
リーあんず）

ひたちなか市

伊藤嘉枝子（日本語ボランティア）
平賀智子（日本語ボランティア）

小美玉市

羽鳥愛（日本語ボランティア・多文化共生
グループおみたまじん代表）
郡司眞知子（日本語ボランティア・手と手
の会代表）

【司会進行】

キキン・イサク・ユウサク・ミズホ
（大洗町在住 外国ルーツの子どもたち）

【開催ポスター／チラシデザイン】

清水友里（ひたちなか市 日本語ボランティア）

【写真撮影・アルバム編集】

渡邊貴宣（大洗町 日本語ボランティア）
高野千絵美（元まなびの輪メンバー）

【協力】

大洗町教育委員会

茨城大学学生プロジェクト「まなびの輪」

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

本プロジェクトは、大洗町・日立市・ひたちなか市と連携し、外国につながる児童生徒による日本語スピーチコンテストを開催することを目的とする。

② 連携の方法及び具体的な活動計画

活動計画は以下の通りである。

(1) 企画・運営者各位は、外国につながる児童生徒と接点のある現場の方々から、開催に向けてのニーズおよび意見を聴取する。具体的には、開催日時・審査方法・児童生徒の募集方法・指導方法・会場までの移手段等についてヒアリング調査を実施する。

(2) 聴取した意見をもとに、運営方針およびスケジュール等を定める。

(3) 募集のチラシを作成・配布するとともに関係者各位に呼びかける。

(4) 茨城県国際課・茨城県国際交流協会・教育委員会に協力を求める。

(5) スピーチコンテストを開催する。

(6) 参加者・ボランティア・観客から意見・感想をうかがい、次年度以降の活動に活かす。

③ 期待される成果

期待される成果として以下の3点が挙げられる。

(1) 外国につながる児童生徒の日本語能力および自己効力感の向上

(2) 茨城県における多文化共生ネットワーク構成のきっかけ作り

(3) 外国につながる児童生徒に対する理解の推進

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

以下、第1回～第5回までの打ち合わせの備忘録（打合せ後、欠席者も含め企画・運営担当者全員に送付したもの）をもとに報告する。

【第1回打ち合わせ（6月12日）：茨城大学】

出席者：植田、栗田、白土、仙波、田山、中島、根本、羽鳥、横溝（敬称略）

プロジェクトを進めていく上での骨幹を以下のように定めた。

(1) 対象は小学校1年生から中学校3年生までとする。予選は実施せず希望者は全員参加できるようにする。

(2) スピーチの長さは3分以内。テーマは「将来の夢」「ともだち」「好きなこと」「頑張っていること」「家族」の中から1つ、各児童生徒に選択してもらう。

(3) 順位はつけず、全員に「〇〇で賞」を授与する。

(4) 原稿作成については（各自自治体職員も含む）地域ボランティアが中心となって支援する。

(5) 各自自治体4名から5名程度の参加を目安とする。

(6) 開催日時を決めるにあたり関係者（特に学校関係者）から早急に意見を聴く。

(7) 教育委員会に働きかける。

【第2回打ち合わせ（7月10日）：茨城大学】

出席者：植田、栗田、白土、仙波、横溝

第2回打ち合わせは、関係者から聴取した意見を踏まえ、以下の通り確認・決定した。

(1) 開催日は2月3日（日）13時～15時、開催場所は茨城大学図書館ライブラリーホールとする。

(2) 参加条件を、少なくとも親の一人が外国籍である／であった児童生徒と定めた。

(3) 募集のチラシは、大洗町役場の白土さんが案を作成（それを全員で確認）。できれば9月には配布できるようにする。

(4) 参加申込締切は10月15日、原稿提出締切は12月14日とする（提出先は各自自治体）。提出原稿は手書き・Word・pdf等自由。

(5) 各自自治体で事情が異なるので、それぞれ適宜進めていく。

【募集チラシ作成：工夫点】

メール・ファックスを利用している外国人は少ないのではないかと、また、日本人（支援者）経由で申し込みをしてくることが多いだろうという予想から、検討を重ねた結果、以下のようなデザインのチラシとなった。なお、日本人支援者には、申込書の裏にその氏名・連絡先を記入もらった。

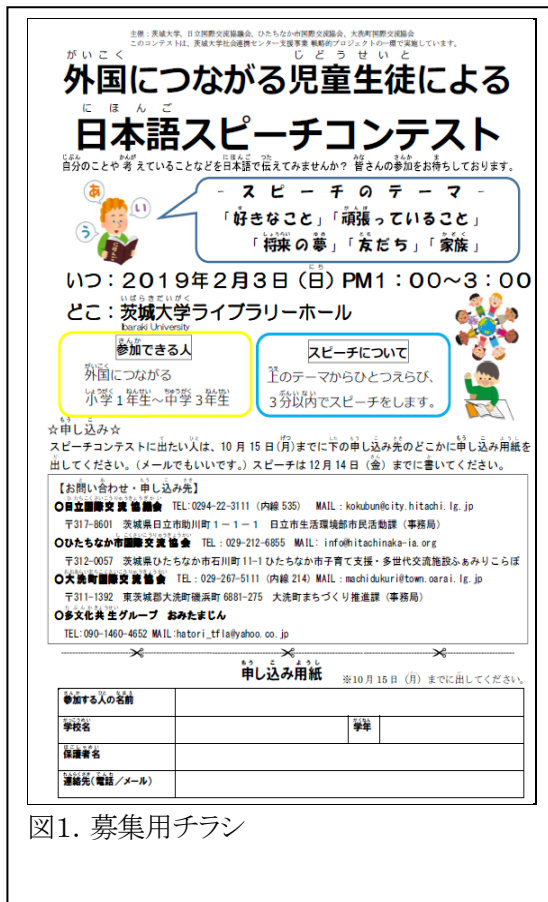


図1. 募集用チラシ

【第3回打ち合わせ(10月26日)：茨城大学】

出席者：白土、仙波、中島、根本、横溝
 主な確認・決定事項は以下の通りである。
 (1) 10月26日現在、参加申込者数17名。募集締切を11月16日に延長することにした。
 (2) 開催のチラシ/ポスターのデザインはひたちなか市の清水友里さんをお願いする。
 (3) スピーチの前にPPT等を用いて、児童生徒の紹介・応援メッセージ等を提示する(1分程度)。制作は各自治体で行う。なお、

この案は、低学年の子どもたちが飽きずに聴いていられるための策として、大洗町の教員が出してくださった。

(4) 参加者全員に「〇〇で賞」、それとは別に観客全員による投票の上位者に「観客賞」を授与することにした。

(5) 参加賞/賞品の候補として、文房具・ゲーム・当日撮影した写真のアルバムが挙げられた。

(6) 昼食(弁当と水)は各参加者+保護者1名分を出すことにした(ひたちなか市が手配)。

(6) 移動手段としてバス3台を手配する(大学が手配)。

(7) 司会進行は、外国ルーツの大学生・高校生にお願いする(大学が依頼)。

【第4回打ち合わせ(12月21日)茨城大学】

主な確認・決定事項は以下の通りである。
 出席者：植田、白土、中島、根本、羽鳥、横溝

(1) 参加児童生徒の最終確認(19名：小学生10名・中学生9名)。児童生徒のルーツはインド、インドネシア、スペイン、スリランカ、中国、フィリピンである。以下に各自治体からの参加人数を示す。

	小学生	中学生
大洗町	4名	5名
日立市	2名	3名
ひたちなか市	2名	1名
小美玉市	1名	
石岡市	1名	

表1. 各自治体からの参加者数

大洗町は外国人集住地域のため、大洗小学校・第一中学校で児童生徒の取り出し授業を行っている。また、大洗町教育委員会が本プロジェクトのために動いてくださったこと、日頃から大学と学校との関係が構築されており、想定される課題について事前に教員と十分な話し合いが行われたことから、学校関係

者各位から協力を得ることができたと考えられる。そのため、参加者の多くは学校経由で申込書を提出している。また、日本語指導にもご尽力いただいた。一方、他の自治体においては、日本人ボランティア経由で申込書が提出された。児童生徒への日本語指導もほとんどがボランティアによって行われていた。これら学校および各自自治体等の取り組み（詳細）については別稿に譲る。

(2) 児童生徒のスピーチの順番を決定した。さらに 19 名の児童生徒それぞれに授与する「〇〇で賞」の「〇〇」部分を（スピーチ原稿を読み）決めた（例：「将来有望で賞」「夢が叶うで賞」等）。

(3) 予算の使途と当日までの各自自治体の負担を以下のように決めた。

◇大洗町：参加賞の文房具セット（約 1,200 円分）、観客賞の図書カード（1,500 円分）を購入。

◇日立市：各児童生徒の表彰状の作成。

◇ひたちなか市：昼食（弁当と水）の手配。

◇茨城大学：バスの手配、式次第・観客賞の投票用紙（小学生の部・中学生の部の 2 種類）・感想用紙・表彰式で「〇〇で賞」を提示するための PPT・司会者のための台本の作成、司会との打ち合わせ、アルバムの依頼。

(4) 当日の業務分担を決める。

◇各自自治体：主に各自自治体の児童生徒・保護者の方々をサポートする。茨城大学までからの移動・昼食の配給・荷物管理・時間管理・リハーサル付き添い・控室から会場への移動その他参加者および保護者等の世話の一切を担う。

◇茨城大学：会場設営・案内・PPT および映像の投影・ホールの明るさおよびマイクの調整・受付・観客賞の集計等を担う。

(5) 当日全体の流れ（参加者到着から出発までのタイムスケジュール）、スピーチ本番・表彰式の流れ（座席・登壇から降壇までの流れ）等を定めた。

【開催ポスター／チラシの完成（1月）】

大学図書館・社会連携センター・大学 HP に掲載を依頼した。その他人文社会科学部内に掲示した（図 2 参照）。



図2. 開催ポスター／チラシ

【第5回打ち合わせ（1月22日）：茨城大学】

出席者：植田、白土、仙波、中島、根本、横溝
昼食・景品・表彰状・バス・PPT・当日の流れ等の最終確認を行った。

(1) 昼食は弁当 60 食と水 150 本を用意することになった（ひたちなか市）

(2) 参加賞の内容は以下の通りである。

◇小学生（定規セット（コンパス・鉛筆削り込み）、鉛筆 1 ダース、消しゴム 2 コ）

◇中学生（蛍光ペン 6 色セット＋多機能シャープペンシル（2 色ボールペン＋シャープペン））

(3) 観客賞は小学生・中学生ともに図書カード（1,500 円分）×6 名分。のしは、ふりがな付きで「観客賞」とする。

(4) 当日の控室担当・ホール（リハーサル付き添い）の担当を決める。

(5) 移動バス

◇担当者・バス利用者・集合時間等の確認

◇バスの中で、大学での注意事項（飲食・貴重品）・当日の流れについて説明する。

(6) PPT・映像の（進捗状況）の確認

1月末までには横溝に届くようにする。

(7) 茨城県国際課および教育委員会に連絡を入れる。

→その後、茨城県国際課が各国際交流協会に開催の通知をしてくださった。

以上を踏まえた上で、1月29日に茨城大学（まなびの輪）の学生と打ち合わせを行った。案内・受付・会場設営・ビデオ撮影・PPTおよび映像の投影・投票の集計等役割分担した上で、当日の流れ（タイムスケジュール）を共有した。

2月1日には学生2名とライブラリーホールで、会場設営の仕方・PPTおよび映像の投影状態・音量等を確認した。

【2月3日（日）開催当日】

(1) 本番まで

10時30分：各自治体（参加者も含む）集合
図書館内の案内を経てから控え室（人文講義棟24番教室）に移動

10時45分：リハーサル開始

リハーサル終了後は控室で昼食休憩

12時50分：参加者ホールに集合

(2) スピーチコンテスト開始から

※司会には1人5分以内で進めるよう指示（5分以内ならそれはそれで可）。

13時00分～13時05分

開会の挨拶（司会の紹介含む）

13時05分～13時45分

〈小学生の部〉スピーチ

13時45分～13時55分

休憩…この間に「観客賞（小学生の部）」の投票用紙を回収・集計。

なお、観客賞の受賞者の名前を表彰状に書く役目は、郡司眞知子さんが引き受けてくださった（〈中学生の部〉も同様）。

13時55分～14時40分

〈中学生の部〉のスピーチ

14時40分～14時55分

〈小学生の部〉表彰：プレゼンターは社会連携センターの西野由希子先生が引き受けてくださった（〈中学生の部〉も同様）。

…この間に「観客賞（中学生の部）」の投票用紙を回収・集計。

14時55分～15時10分

〈中学生の部〉表彰

15時10分

閉会の挨拶（司会）

あんず日本語教室で勉強中



図3. 生徒紹介のPPT（抜粋）



図4. スピーチの様子

(3)参加予定児童生徒 19 名中 18 名が参加した (1 名はインフルエンザのため欠席)。全員がホール満員の観客の前で堂々とスピーチを行った。



(4) 来客数 (参加者・自治体職員・ボランティア込み) は、約 120 名。立ち見が出るほど多くの方が足を運んでくださった。

(5) 観客からのコメント・感想

観客・参加者からいただいた感想・意見で多かったものを以下に挙げる。

◇スピーチを通して児童生徒の思い・夢等が伝わってきた。

◇楽しかった。

◇来年度以降も継続してほしい。

◇表彰の仕方 (全員に「〇〇で賞」を授与) が良かった。

◇スライド (PPT・映像) 等で児童生徒の紹介があったのが良かった。

一方、課題として以下のようなコメントも挙げられた。

◇一生懸命に話しているのに声が小さかった

りマイクに届いていなかったりしたのが残念だった。

◇立ち見が出ていたので、もう少し広い会場でもいいのかもしい。

◇本人の言いたいことを指導者がまとめたと思えるものがあつたが、そういった形でもスピーチコンテストをする意義があるのか疑問に思った。

以上、今後の活動に活かしていきたい。

【スピーチコンテスト終了後】

(1) アルバムの作成

当日撮影した写真をもとにアルバムを編集集中である (撮影・編集ともにボランティア)。完成後は、お世話になった方々に (報告を兼ねて) 進呈する予定である。

(2) 当日の写真 (約 460 枚) および全児童生徒のスピーチ映像のデータは、各自治体・関係者に配付した。

(3) 本プロジェクトの関係者各位にヒアリング調査を行った。主な調査内容は、各自どのように動いてきたか、各参加者を誰がどのように指導してきたか、本プロジェクトの成果および課題である。このヒアリング調査の詳細な結果および考察については稿を改めて述べる。本報告書では概要のみを示す。

②プロジェクトの達成状況

先に (期待される成果) として掲げた 3 点を軸に述べていく。

(1) 外国につながる児童生徒の日本語能力および自己効力感の向上について

多くの学校関係者およびボランティアの方々から、児童生徒が自信をもつことができたとの報告を受けた。筆者が関係者各位にヒアリング調査に行った際、2 名の生徒に会ったが、両者とも「参加して良かった」と満足気であった。全校集会で改めて表彰して下さったり、学校/学級通信に児童生徒の活躍を掲載して下さったりした学校もあった。これら学校教員による支援が児童生徒の自己

効力感をさらに後押ししたと言えるだろう。また、一部のボランティアから、本コンテストを通して多くの語彙を学ぶことができたとの意見も寄せられた。

これらの成果は、児童生徒の努力はもちろんのこと、学校関係者およびボランティアの方々のご尽力があったからこそのものであろう。日本語指導・保護者への連絡・参加者の精神的サポート等、学校関係者およびボランティアの方々が児童生徒のために費やして下さった労力は計り知れない。

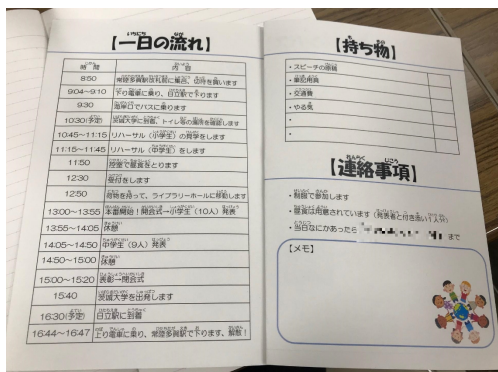
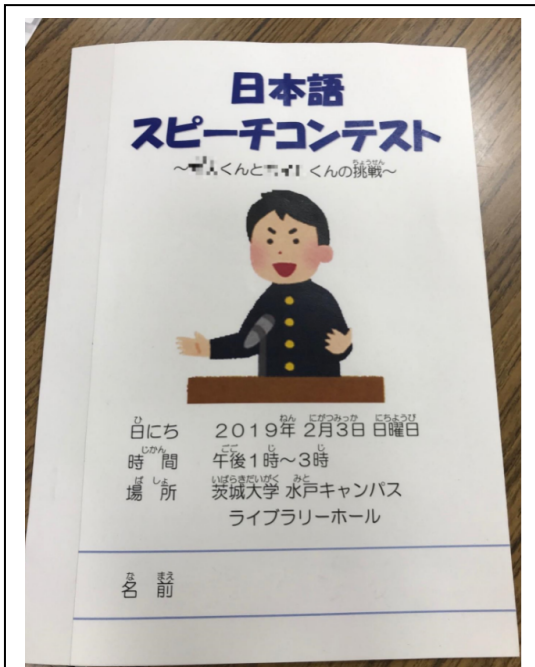


図 7. 日立市のボランティアの方が作成して下さったしおり

以上の点から、(1)の観点において本プロジェクトは非常に意義のある活動であったと評価できるだろう。

(2)茨城県における多文化共生ネットワーク構成のきっかけ作り

自治体間のつながり、また、学校やボランティアと新しい関係ができたことを評価している方が多かった。しかし、その一方で、自治体間の格差を感じた、大学・自治体職員とボランティアの間で情報の共有ができていなかった、役割分担ができていなかった等の課題も挙げられた。さらに、今回は主に3市町1団体を中心とした活動であったが、今後は地域を広げていくことも視野に入れていきたい。以上の点から、(2)においては、プラスの方向に進展したものの、まだ発展の途上であると言えよう。

(3)外国につながる児童生徒に対する理解の推進

スピーチコンテストに来て下さった方々は、児童生徒のこれまでの思い・これからの夢について理解を示して下さった。今後、さらに多くの方々に観にきていただけるよう広報活動等に力を入れていく必要があるだろう。

② 今後の計画と課題

「子どもたちが参加して良かったと思えるスピーチコンテストにする」という目的を第一に、ここまで活動してきた。その目的の達成を最優先したことから、活動の後半は次から次へと五月雨式に出てくる業務を、ボランティアに打診／依頼する余裕がなくなり、ほとんど大学と事務局で担ってしまった。それに対して不満を抱いているボランティアもいると聞く。また、大学・自治体とボランティア団体の間で「声をかけた」「声をかけられていない」「伝えた」「伝えられていない」等の齟齬もみられた。大学・自治体・ボランティアとの関わりについては別稿に譲り、今後さらに検討を重ねていきたい。

第二に、PPT および映像による児童生徒の紹介・応援メッセージは好評であったが、制作に関わった方々から、統一された基準がなかったため作りにくかった、自治体間で差があったとの意見が挙げられた。今年度は初めての試みであり、また各自治体によってできることが異なるため、全てを各自治体（各団体）の判断に任せたが、来年度以降（継続する場合は）は、今年度の活動を活かしていきたい。

第三に、今後は大洗町・日立市・ひたちなか市・(小美玉市) 以外の地域にも協力を仰いでいきたい。

第四に、大洗町以外の自治体においては、教育委員会と今後どのように関わっていくかも課題の一つとして挙げられるだろう。

これらの課題を踏まえて、来年度以降の開催については、各自治体と協議の上決めていきたい（現時点では、2つの自治体からは前向きな意見をいただいている）。継続していく場合は、引き続き「子どもたちが参加してよかったと思えるようなスピーチコンテストにする」といった思いを第一に据え、児童生徒の支援および県内のネットワーク構築を一步一步ではあるが目指していきたい。